

会 議 録

会議の名称	令和5年度第2回川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 子ども・子育て会議
開催日時	令和5年7月21日(金) 14時00分 開会 ・ 16時30分 閉会
開催場所	川越市役所 本庁舎7階 第1・第5委員会室
議長(委員長・会長)氏名	平野方紹会長
委員出欠状況	出席：13名 平野会長、鈴木副会長、松本委員、中田委員、井守委員、山田誠次委員、山本委員、水谷委員、田村委員、長峰委員、榎本委員、近藤委員、伊藤委員 欠席：6名 今野委員、小寺委員、影山委員、山田紀子委員、堀口委員、春原委員
傍聴人	1人
事務局職員職名	こども未来部長、こども未来部副部長(こども政策課長)、こども育成課長、こども家庭課長、こども家庭課副課長、保育課長、保育課副課長、療育支援課長、児童発達支援センター所長、健康づくり支援課長、教育財務課長、こども政策課副主幹、こども政策課主任、こども政策課主事
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 議題 (1) (仮称)川越市こども計画の策定に向けた調査について 4 報告 (1) 川越市保育所等の待機児童の状況について 5 その他 6 閉会

配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・こども政策に関する令和5年以降の国の動向について ・・・(資料1) ・こども未来戦略方針(抜粋) ・・・(参考資料) ・第1回子ども・子育て会議 意見(会議シート)まとめ ・・・(資料2) ・(仮称)川越市こども計画策定に向けた調査の進め方について ・・・(資料3-1) ・調査の種別と調査対象者について ・・・(資料3-2) ・調査票(放課後児童クラブ(学童保育)利用者対象) ・・・(資料4-1) ・調査票(就学前の児童の保護者対象) ・・・(資料4-2) ・川越市保育所等の待機児童の状況について ・・・(資料5)
会議要旨	<p>3 議題</p> <p>(1) (仮称)川越市こども計画の策定に向けた調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各調査票(放課後児童クラブ(学童保育)利用者対象調査・就学前の児童の保護者対象調査)に係る設問等について意見交換を行い、その他に意見がある場合は、会議シートにて事務局に提出することとなった。 ・分科会等での各委員からの意見を踏まえ、修正した調査票を次回の分科会にて再度附議し、そこで議論した上で調査票を確定させることとなった。 <p>4 報告</p> <p>(1) 川越市保育所等の待機児童の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員から報告内容の主旨や待機児童数の考え方について質問があり、それら質問に対し事務局より回答を行った。 <p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長峰委員より子ども等の熱中症対策に関する情報提供があった。 ・事務局より次回分科会の開催日程について、8月22日(火)10時から開催する旨の案内を行い、開催通知については改めて送付するとした。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>※本資料では以下のように表記する。 川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 (川越市子ども・子育て会議) → 分科会</p>
	<p>1 開会</p>
	<p>2 挨拶</p>
	<p>3 議題</p> <p>議題に入る前に、新たに選出された新規委員及び前回欠席した新規委員が自己紹介を行った。</p>
	<p>[議題(1)]</p> <p>(仮称)川越市こども計画の策定に向けた調査について 事務局より資料1及び資料2に基づき、説明を行った。 説明内容の概要は以下のとおり。</p>
事務局	<p>(資料1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から現時点までのこども政策に関する国の動向について、「骨太の方針」や参考資料の「こども未来戦略方針(抜粋)」等の説明を行い、国が年内に策定する「こども大綱」を踏まえて、本市の「こども計画」を策定する予定とした。
事務局	<p>(資料2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回分科会において委員より提出された会議シートへの事務局の見解について説明を行った。 <p>その後、平野会長から事務局の説明に対し、補足説明が行われた。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の説明に補足をさせていただく。貧困のアンケートについて小寺委員と山本委員より貧困の定義について意見をいただき、適切な意見であると感じている。 ・一方でアンケートの実施に際して、研究者の中で「心理的侵襲」という言葉があるが、子どもたちの心に傷を負わせることはないように配慮しなければならないと考える。具体的には貧困の定義づけをすることにより、自分の家は貧しいとか、あの子の家は貧しいとい

	<p>うことで子どもたちの心を傷つけることがないように、アンケート内容を検討したいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート内容の決定については事務局とも協議し、各委員からの意見をもらえるように次回分科会までに1か月程度の期間を設けることとした。 ・山田誠次委員からの意見のあった、本分科会においてこれまでの範囲を超えた審議を行うことの必要性について、事務局と相談し、次回分科会より関連する他計画の動向等を報告させていただく方向で検討している。 ・伊藤委員より意見のあった前回調査からの改善点の反映については、前回調査との比較も重要な要素となる。そのため、アンケート内容の大幅な変更は難しい。質問項目の追加についても、質問数が多くなりすぎてしまうことは避けたいと考えているため、バランスも考えなくてはならないと思っている。 <p>【各委員からの意見等】</p>
会長	資料1、資料2について委員から意見はあるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今回実施するアンケート及び次期計画について、これまでよりも対象者の幅が広がっており、本分科会のみでの議論では難しいと考えている。そのため会長から説明があったように、関係他課や他の審議会も含めて川越市全体で検討していかなくてはならないと感じている。そのためにもまずは本分科会において、各委員が意見を出し合い、課題を解消していくことが重要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の分科会以降、国でも子どもに関する施策等の動きが出ているが方向性が一貫していないというのが自身の感想である。 ・子どもたちも年齢が上がっていけば、各家庭の違いを自覚できるようになる中で、アンケート調査において、貧困の定義づけをすることにより子どもたちの自己肯定の部分を傷つけることがないように配慮する必要があると考えている。 ・また、アンケート調査について、チェック式のほうが集計は容易であるが、中間の回答が多くなる傾向があり、必要な意見が埋もれてしまう可能性がある。そのため、読み解くのが困難な面はあるが、自由記述式を採用することも検討していただきたい。 ・川越市として子育て支援策と少子化対策の整理をしっかりと行い、どのように進めていくかを本分科会にて議論していく必要があると考えている。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査については目的ではなく方法であるため、川越市の子ども・子育てに関する状況が良くなっていくのであれば質問数が多くなってしまふことは仕方ない考える。 ・内容について、前回との比較項目は残しつつ、国の方針や状況に合わせた質問内容も含められるよう検討していければよい。 ・また、貧困調査について、子どもたちへの配慮は必要だと思うが、貧困について意識させることなく実施したアンケートは本当に貧困の実態を調査することができるのかという点に疑問を感じる。 ・難しいことは承知しているが、少しでも良いアンケートとなるよう私自身も感じたことは意見していきたい。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・最後にもう一点発言させていただく。子どもの意見の反映について事務局と話し合い、互いに子どもの意見の反映は必要であるとの考えは確認している。 ・ただし、来年度の次期計画の策定段階において、どのように意見を聞き反映させるかの方法については時間をかけて検討させていただきたい。各学校の代表から意見を聞くような方法が考えられる手法とは思いますが、いわゆる優等生のような子どもだけの意見を聞くのではなく、本当に困っている、援助を必要とする子どもたちの意見をどのように聞くのかということを検討していきたいと考えている。 <p>その後、事務局より資料3-1から資料4-2に基づき、説明を行った。説明内容の概要は以下のとおり。</p> <p>(資料3-1)</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・各調査票については、まず調査票の案について提案し、分科会での審議を行ったうえで次回の分科会において決定するという進め方を予定している。 ・ニーズ調査について、特に学童保育利用者数が9月以降に登録者数の減少が見込まれることから、貧困実態調査及び子ども・若者調査に先んじて実施する。 ・貧困実態調査及び子ども・若者調査については、調査票を作成する上で、9月下旬に示される見込みのこども大綱の中間整理を可能な限り反映したいと考え、8月の第3回分科会で調査票の提案を行い、10月上旬に開催予定の第4回分科会で調査票を決定する。 ・11月下旬に開催予定の第5回分科会については、実施中の調査の状況により、必要に応じて開催する予定。 ・年明け2月に開催予定の第6回分科会において、調査結果の概要報

	<p>告を行い、完成した報告書については来年度の第1回分科会で報告する予定。</p> <p>(資料3-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査については、就学前の児童の保護者と小学生のうち学童保育を利用する保護者に対して実施する。当該調査は主に保育や学童保育、一時預かりといった地域子ども・子育て支援事業のニーズについて、前回調査との比較ができるよう、基本的には調査内容を踏襲して実施する予定。 ・貧困実態調査については、小学生、中学生、高校生年代の子ども本人と保護者の両方に対して行う。子ども年代については重複するが、こども・若者調査は小学生・中学生・高校生年代のほか、18歳から39歳までの若者年代を対象とする。 ・貧困実態調査とこども・若者調査については、新たに就学後のこども・若者に対する施策の必要性について調査するため、国の動向(こども大綱)踏まえて調査を実施したい。 <p>(資料4-1)及び(資料4-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料4-1については計25問あり、資料4-2については計34問あり、枝問を加えると更に多くあることから、両資料について前回実施した調査内容からの変更点を中心に説明を行った。 ・薄い色(※ホームページ掲載時では黄色)でハイライトされた設問が今回の調査より新たに追加した設問、濃い色(※ホームページ掲載時ではグレー)でハイライトされた設問が削除する設問で、それぞれ追加理由と削除理由を説明した。 <p>その後、平野会長から事務局の説明に対し、補足説明が行われた。</p>
<p>事務局</p>	<p>(資料3-1)(資料3-2)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の進め方は事務局の説明のとおり、まずこのニーズ調査については今回提案して、委員に検討していただき、次回に決める予定。なお、ニーズ調査の設問については、国がある程度のひな形を決めており、それを全国や都道府県と比較するというのが前提にある。 ・また、貧困実態調査については、各委員からご意見があったように、言葉の使い方や設定の仕方を含めてどのような形にするのか。また子ども・若者調査については、川越市独自の調査になるため、内容等を検討する必要があることから、8月の次回分科会にて提案し、皆さんに検討していただき、時間をとって議論し、10月に決めるということ考えている。 ・保護者を対象とするニーズ調査については貧困実態調査と子ども・
	<p>会長</p>

<p>会長</p>	<p>若者調査に先んじて進めていきたいと考えており、子ども本人たちを対象とした子ども・若者調査、貧困実態調査については、川越市独自の部分を考える必要等があることから、時間を掛けて検討していきたいといった二段構えになっている。</p> <p>【各委員からの意見等】</p> <p>事務局からの説明に対し、委員の皆様から順番に御意見をいただきたい。</p>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自由記述がある点が良い。現状に対する設問の回答だけでなく、意見を記載する欄があることで、熱い思いがある人がいれば、そのような方の言葉を拾うこともできると思う。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> こども未来戦略方針でも触れられていたが、子育てしながら自らの奨学金の返済に苦しんでいる家庭があるという声を聞いたことがある。親や本人が希望していても、経済的な理由で子どもを進学させられない家庭もあり、その点も子どもを持つハードルとなっているかと思う。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子育てに対し、金銭的な支援が必要であると思うが、それ以上に制度化した支援が重要ではないか考えるので、そういったニーズを捉えられる今回の設問は良い。 ちなみに市内の学童保育は何か所あるのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市内の市立小学校が32校あり、すべての学校に学童保育が設置している。 ただし民間は各学校に設置していない。事業者がそれぞれ設置している。 放課後児童健全育成事業には2つの面があり、就労している親の代わりに子どもを一定時間預かってほしいという保育・福祉的要素と、進学前に学力をつけたいといった塾的なニーズもある。今回の調査の対象となっているのは公立学童の面が強くなっている。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今回の調査では特に若者まで広げて行うということで、集計するのが大変だと思うが、どのような意見があるのか等を把握する上で、このようなアンケートは非常に重要だと思う。 学童保育室については、ひとクラスの人数が非常に多くて学童保育室の支援員の人数が足りていないと聞いている。その点からもアンケートの必要性を感じている。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査の対象はこれでいいのかと思ったが、市としても悩んでいるという印象を受けた。 ・問10にある親族や知人に子どもを見てもらっているかという設問はとても重要だと思う。地域で孤立している家庭もあり、そのような家庭を把握し、施策に反映させるために必要である。 ・また市の事業の認知度についての設問について、ショートステイ、トワイライトステイ事業を川越市から請け負っている身として、自身でも周知方法を考えていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・母子家庭等でどうしても夜間に子どもを預ける必要がある方もいるので、そのような方に対し、安心して預けられる場所を提供することはとても重要と考える。 ・どのようにすれば回答してもらえるか考える必要がある。突然封筒が郵送されきても、回答しようとはなかなか思わないのではないかな。前もって周知する等、何か取っ掛かりがあると良い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の正規雇用比率について、現在はL字カーブとなっているが働き方改革の推進に関して、女性の社会進出や少子化対策、また子育て支援は分けて考えるべき。実際に女性の社会進出による晩婚化によって自然妊娠率の低下から不妊治療をする割合が増えていると思われる。 ・両親の過重労働により子どもが両親との時間を取ることができず、子どもの心が成熟しない、また過重労働によるイライラから子どもへの虐待に繋がる可能性もある。 ・そのため、働き方改革、少子化対策及び子育て支援はしっかりとリンクする必要がある。 ・このアンケートでは実際に子育てしている生の声を集め、吸い上げていければと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化対策は本当に難しいと思うが、企業側も前向きに対処していく必要があると感じた。 ・今後、本分科会等を通じ、商工会や法人会でこのような意識をさらに深めて具体的な行動を起こす必要があると思う。 ・必要があれば、商工会や法人会等にアンケート調査の協力をお願いしても良いかと思う。 ・調査について、意見の回収は難しいと感じた。調査の対象ではないが、こども食堂等の子ども支援に携わる方にも話を聞いて、事例紹介などができたら良いかと思う。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの設問は必要なものだと思うが、個人的には設問数が多く、回答者への負担が大きいと感じる。急に調査依頼があると負担感があると思うので、何らかインセンティブがあるといい。ただ最後の自由記載は良いと思う。 ・アンケートに盛り込めないかもしれないが、1人目2人目を出産して子育てしてきた方にこれからもう1人、妊娠出産したいと思うとか、どのような行政サービスがあれば、もう1人出産したいと思えるかといったアンケート又はフォローがあるといい。 ・イベント等の中で、このようなアンケートに回答できるブース等を設ければ、回答者も開放的な気持ちとなり、率直な回答をいただけるのではないかと感じた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新規で追加した問24等について、「知らない」という選択肢を選んだ人は心理的に「利用したい」を選ばないのではないかとと思うので、リード文を工夫したら良いのではないかと。 ・子ども・若者調査の対象が39歳までとなっている。そもそも「こども計画」の策定を銘打っている中で、子どもというよりは、既に子どもを育てている人もいると思われる年齢を対象として有効な回答が得られるか疑問。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県において青少年健全育成支援プランを策定しており、その対象者を定めるにあたって、施策によっては子供若者育成支援推進大綱に基づいた分類とするとした。 ・分類として、「子供」、「若者」、「青少年」と大きく三つあり、青少年については更に細かく分かれ、「乳幼児期」と「学童期思春期」、「青年期」、さらに「ポスト青年期」となっており、「青年期」が30歳未満で、ポスト青年期が40歳未満と区別されている。 ・こども計画を策定していく上で、結婚して子供を産み育てることに対する不安が若い世代にあるのかどうか、あるいはその結婚して子供を産むことに対するインセンティブが必要なのかどうか、そのような点について子供と若者とで区分して意見を聞くことが必要だと事務局として考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・前回実施した際のアンケートの回収率はどのくらいだったのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育の保護者を対象としたアンケートの回収率は72%だった。またニーズ調査は56.3%であり、いずれも50%は超えていた。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元コード等、電子申請での回答もできるとのことで、回答しやすい工夫がされていると思う。 ・アンケートが活かされるよう、配布方法についても回収率が上がるような工夫が必要。 ・このようなアンケート依頼があったとき、現場も対策に身構える傾向があるので、そのような意味でも働く職員を対象にアンケートを行うのも良いかと思う。 ・給与等の待遇面、クレーム対応等の環境面から保育士や幼稚園の先生のなり手が少ない状況にある。このような働きづらい環境となっている現場もあるということ把握しながら子育て支援をしていけば、このアンケートも現場に届くのではと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートのボリュームは非常に多いが、設問はよくできていると思う。 ・アンケートには市の事業が掲載されているが、市民がそれをどの程度知っているか、確認できる良い機会であると考え。保育ステーションの利用者数の問題もそうだが、良い事業を実施しているのに、ビラやチラシでの広報活動だけで良いのかと疑問に思う。事業の認知度を把握することで、広報やPR活動の参考になると思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・調査票についてこれで全て決めるというわけではなく、今日いただいた意見と、また各委員に今日の議論を持ち帰っていただいて更にご検討していただき、意見シート等でご意見をいただき、それをもって次の分科会にて決めていきたいと思う。 ・今日の議論において、アンケートの内容だけに限らずどうすれば協力してもらえるのか、それはどうすれば生かせるのか、といった課題も出た。 ・そのため、単にこの調査票だけを検討するのではなく、どのようにすれば協力してもらえるか、どのように回収率を上げられるのかという方法論も含めて、ご意見をいただければと思う。
事務局	<p>4 報告</p> <p>(1) 川越市保育所等の待機児童の状況について</p> <p>事務局から資料5に基づき、説明を行った。 説明の概要は以下のとおり。</p> <p>(資料5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の待機児童数について、昨年度と同様に8人となった。本市の待機児童数は平成21年度の173人をピークに減少傾向にあっ

<p>会長</p>	<p>たが、ここ数年は横ばいの状況。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年4月時点の本市の未就学児童数については、前年から440人減少し1万4,495人となったが、保育所を希望する新規利用申込数は前年に比べ93人増加し、また利用者数についても前年に比べ111人増加した。 要因の一つとして、コロナ感染症がある程度落ち着きが見られる中、働きに出る保護者の方が増え、子育て世帯の保育事業の需要が高まったことがあると推測している。 <p>【各委員からの意見等】</p> <p>事務局からの説明に対し、何か質問等はあるか。</p>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 要因としてコロナという説明があったが、この8人という数字が良いか悪いか、また少子化の中で今後の推移はどのようになると考えているのかといった情報がなければ、この8人をどのように評価すべきかわからない。 0人が必ずしも良いかというところではないと思うが、8人という数字を見ただけではもっと少ない自治体があるんだったら、もっと少ない方が良いとしか言えないかと思う。 地区別のデータについて、待機児童数にこのような偏りがあるとその要因も疑問である。 せっかく報告していただけるのであれば、そのような点について資料を見て、わかるようにしていただくと非常に有難いと感じた。
<p>会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 会長の立場からすると、この状況を見て早急に対応する必要があると判断した場合、制度上では、勧告権がある。あるいは意見具申することもできる。 理想は待機児童数が0人だが、保育施設が定員割れしたらそれはそれでまた困るため、ただ0人でいいのかというのも一つの議論。 そのため、現状を明確に報告してもらうこと、その上で判断するという流れとなるため、この報告も一つの役割かと思う。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> この数字については、色々な見方があるかと思われるが、これまでの待機児童数の推移から全体的に減少傾向にある。 また子育て世帯の状況により、子の年齢が1歳以降については仕事の関係等で保育施設に預けたいという希望が高くなり、数字としても出ており1歳児の待機児童が多くなっている要因の一つであると思われる。 地区別の待機児童数では大東や福原管内が多いが、当該地域におい

	<p>て募集が思うようにいかなかった園があり、その点も影響が出ているかと思う。しかし、これも改善している状況にあるので、数字としても改善の方向になるかと想定される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川越市としてこの8人という数字をどのように捉えるかについて、当然0人が望ましいと思われるが、会長も言われたとおり、その評価が正しいとは限らない。公立と民間それぞれがうまく需給バランスが整って、また預けたいという子育て世帯の気持ちに応えられる体制になっているかどうか非常に大事なところ。 ・瞬間的なこの数字よりも年間を通して子育て世帯の保育施設に預けたいという希望に応えられる環境が整えられているかどうか、また受け入れる側についても安定した経営ということに繋がっていくかどうか、その点について年間を通して見ていく必要がある。 ・保育園の場合は比較的長い時間の預け入れが多いが、幼稚園においても一時預かりという拡大して預けられるところもある。このように多くの受け皿があるということをより多くの方に知っていただくため、説明していかないといけないと思う。
委員	<p>5 その他</p> <p>長峰委員より熱中症の注意喚起について説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所属の保健推進協議会において、様々な症状を引き起こす熱中症の注意喚起を促すパンフレットを作成したので、各所属部署において周知をお願いしたい。
事務局	<p>その後、事務局より事務連絡を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議シートについて、本日の議題に係るご意見等がある場合、8月2日（水）までにメール、郵送、FAXにて提出をお願いしたい。 ・第3回分科会を8月22日（火）10時から開催する予定。改めて開催通知等を送付させていただく。 <p>6 閉会</p>